

『時事直言』 No.1757 2025 年 8 月 25 日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] t_masuda2019/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] t_masuda2019/



時事評論家 増田俊男

とうとうウォール街まで敵にしたトランプ

8 月 1 日の労働省統計局発表の 7 月の雇用統計が市場の予想の 100,000 人より少ない 73,000 人であり、5 月と 6 月の雇用統計の合計 286,000 人から 250,000 人下方修正された為、労働市場が悪化していたことを嫌気してニューヨーク・ダウ平均株価が 700 ドル以上下がると、何よりも最も神経を使っている株価が下がった為、トランプは自分の関税政策が原因で株価が下がったと思われるのを恐れて、エリカ・マッケンターファー統計局長が自分と共和党を不利にする為捏造したデータを発表したと公言し、翌日の 8 月 2 日局長を解任した。

トランプは 8 月 1 日に統計局から発表された数字を調査もしないでただ自分に不利になると言うだけで統計責任者を解雇した。

統計局長のマッケンターファー女史(52)は統計学の専門家として労働省、財務省で活躍し最も信頼の厚い官僚であった。

女史は立派な経歴を持ち、信頼のおける官僚として出世の道を登り詰めてきた官僚の鏡のような人物である。

それをいい加減な言いがかりをつけて首にするトランプがアメリカは元より世界の識者たちから批判されるのは当然である。

8 月 1 日の 7 月雇用統計と 5、6 月の下方修正の結果、労働市場の悪化が分かり FRB はトランプが望む 9 月の利下げを考えるようになり、市場の 9 月利下げ予測の確立は 90%まで高まった。

利下げを FRB に強要して来たトランプはマッケンターファー局長を解雇するどころか感謝しなくてはならないのに首を斬った。

トランプはすぐさま後任の局長にヘリテージ財団のチーフエコノミスト、E・J・アントニー氏を任命した。

アントニーはトランプ支持者で年中マッケンターファーを批判していた。

アントニーはトランプが好む数字を出す為にサンプリングを操作するタイプの人間であることで知られている。

これでトランプは労働省統計局を自分が好む数字が出るよう操作する機関に変えた。

米統計局が信頼を失えば FRB も市場も信頼を失い、今後信用恐慌に陥りかねない。

8 月 13 日ゴールドマン・サックスのチーフアナリスト(デービッド・メリクル)が CNBC の番組で、トランプ関税は「秋には消費者がコストの 3 分の 2 を負担することになる」と述べるや否やトランプはソロモン CEO に「新たなエコノミストを雇え、お前は趣味の DJ(マーケット)に専念して経営には関与しない方が良い」と述べた。

ゴールドマン・サックスは綿密な調査や市場動向を考慮してトランプ関税の物価へのインパクトを分析したのである。

またもや自分がアナリストの分析が気に入らないと CEO に当アナリストを首にしろと圧力をかける。

私は「トランプはやがて目に見えない力で寿命が終わる」と述べたが、市場は「見えざる手」で動いている。

トランプは大統領選でトランプを支持したウォール街を敵に回してしまった。

見えざる手のお手並み拝見である。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。